

2024 年 6 月 7 日開催の会社説明会でいただいたご質問とご回答

Q 計画中の傘下銀行 2 行の合併について、定量シナジー、合併費用の見込みは。また、合併により期待していることは。

A 両行合併に関連してのトップライン・シナジーや合併費用などは、今まさに算定中。費用で一番大きいのはシステム統合費用。グループとして経営統合から 15 年となり、これまで基幹系システムやサブシステムのベンダーの一本化を進めてきたが、両行の合併、1 システム化となると相応に費用が掛かる。ベンダーに見積もりを依頼中で、今年度上期中にはとりまとめを行いたい。

また、合併によりどのような成長戦略を描くのか、そして具体的なトップライン・シナジーについても議論を開始したところ。お取引先の本業支援のためのビジネスマッチングについて、情報共有の仕組みづくりをしているが、これも 1 つの銀行になることで、より一体的な営業情報の活用ができる。北都銀行が先行してノウハウを蓄積しているプロジェクト・ファイナンスや、マーケット・ニーズも高いDXコンサルティング、地域と一体で取り組んでいる観光を核にした地域活性化など、他行にはない両行の強みを一体的に伸ばしていきたい。

Q 金利のある世界に変わろうとしている。調達を中心である預金の獲得方針は。

A マイナス金利の時代には預金はコストといわれたが、預金で調達して貸出金で利鞘を稼ぐという伝統的な銀行ビジネスに回帰することで、預金による調達は再び重要になると考えている。説明資料 13 ページにあるように、貸出金に比較して預金の残高が十分にあり、高い金利で積極的に預金を集めるなどは考えていない。法人取引を中心に、事業所の従業員の個人預金など、定着性の高い預金の獲得に取り組んでいく。

Q 日銀の政策金利引き上げの影響を、24 年度、25 年度計画の中で、どの程度織り込んでいるか。また、注力しているプロジェクト・ファイナンスは、比較的長いタームの貸出になっていると思うが、政策金利引き上げの影響は。

A 資料 6 ページにある資金利益の計画のなかで、この 3 月のマイナス金利解除により預金の利回りは 4 月から影響。また、10 月の追加利上げ+0.25%により短期プライムレートも上昇するシナリオにより、下期は、預金および貸出金の利回りの上昇を見込んでいる。政策金利引き上げの影響は、24 年度は、貸出金利息+9 億円、預金等利息

+10 億円で、預貸金利息差としては△1 億円。預金利回りが先行して上昇している影響が大きい。25 年度は、足元の残高をもとに、追加利上げを勘案しないシミュレーションでは、貸出金利息+19 億円（23 年度比）、預金等利息+17 億円で、預貸金利息差としては+2 億円と、徐々に利鞘が拡大していくものと見込んでいる。プロジェクト・ファイナンスにおいては、既存の案件では、それぞれの事業の収支やキャッシュフローの確実性を高めるために、固定金利中心になっているため、政策金利引き上げの影響はそれ程大きくないと見ている。今後の案件については、事業への影響を勘案しながら金利交渉を行う必要があると考えている。再生可能エネルギー事業は、国として政策的に注力しているものであり、我々としても積極的に支援していきたい。

以上